千葉都市モノレール2号線

千葉公園駅

【現　況】

千葉公園駅は、1日平均乗車人員は約800人、自転車等の乗入台数は83台である。
駐輪場は1箇所設置しており、収容台数は50台となっている。
なお、駐輪場は無料となっている。

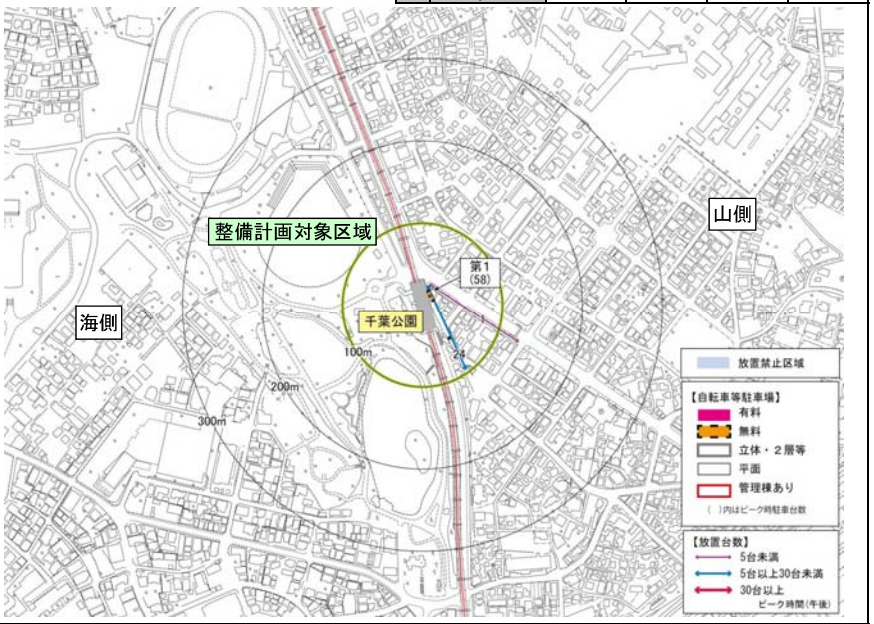
【整備計画】

受益者負担の原則に基づき、有料化を検討する。また、有料化の時期に合わせて放置禁止区域を指定する。
駅全体では、推計台数が収容台数を下回ることから、駐輪場の縮小により対応する。駐輪場の縮小にあたっては、路上の駐輪場であることから、原付の受入れは行わない。
なお、有料化に伴い、既存駐輪場では、ラック、転倒防止柵、利用案内看板等の駐輪設備の整備が必要である。

駐車台数・放置台数

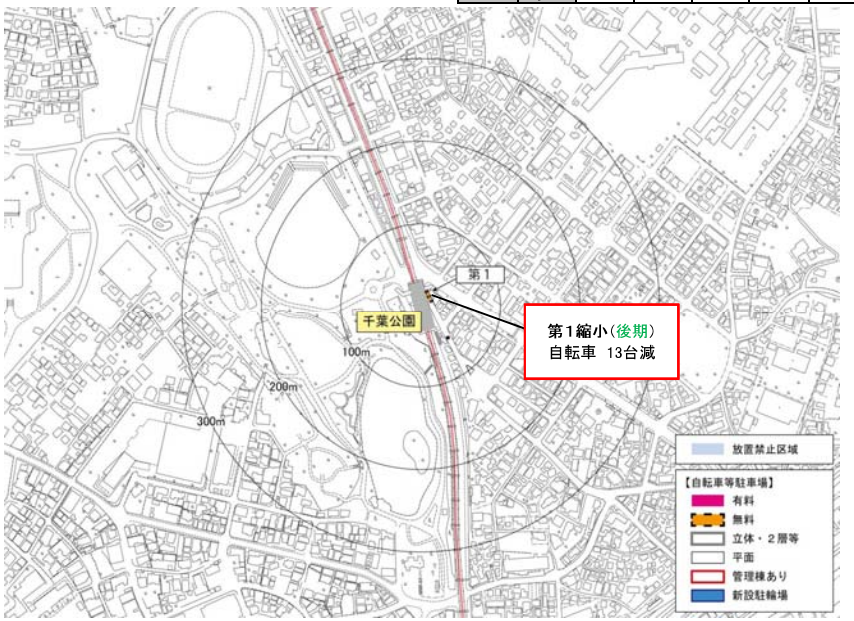
測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体		ピーク時乗入台数			収容台数
			駐車	放置	
計		83	58	25	50
	自転車	72	52	20	50
	原付	11	6	5	0



整備計画図

全体		乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計		83	—	83	—	43	50	−
	自転車	72	1.00	72	0.51	37	50	−
	原付	11	1.00	11	0.51	6	0	6



◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	774 人／日

（H26千葉市統計書）

【需要推計】

千葉公園駅周辺では、計画目標年次（平成33年）の乗入台数は83台と推計している。また、無料駐輪場を有料化した場合、乗入台数に減少が見込まれることから、需要推計においては有料化による影響を考慮し、乗入台数を43台と推計する。現在、収容台数は50台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体	自転車	原付
		1.00	1.00

無料駐輪場の有料化による乗入台数低下の割合	自転車	原付
	51%	51%

◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数						内　一時利用				整備時期	主体		
			現況(内原付)		整備(内原付)		計(内原付)		現況(内原付)		計画(内原付)			用地	整備	運営
	第1	縮小	50	(0)	−13	(0)	37	(0)	0	(0)	0	(0)	後期	市	市	市
	計		50	(0)	−13	(0)	37	(0)	0	(0)	0	(0)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33

千葉都市モノレール2号線

作草部駅

【現　況】

作草部駅は、1日平均乗車人員は約1,800人、自転車等の乗入台数は158台である。
駐輪場は1箇所設置しており、収容台数は140台となっている。
なお、駐輪場は無料となっている。

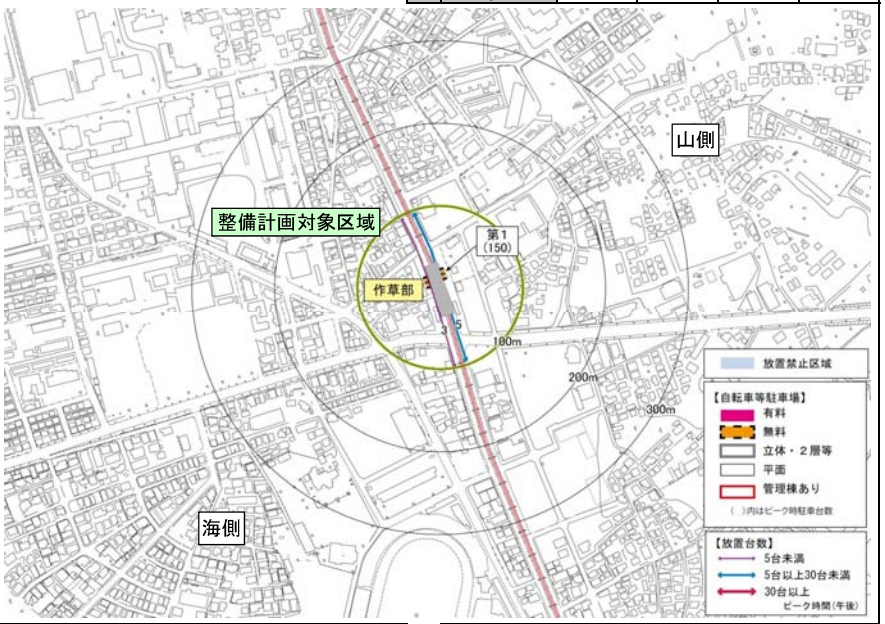
【整備計画】

受益者負担の原則に基づき、有料化を検討する。また、有料化の時期に合わせて放置禁止区域を指定する。
海側及び山側では、推計台数が収容台数を下回ることから、第1駐輪場の縮小により対応する。第1駐輪場の縮小にあたっては、路上駐輪場であることから、原付の受入れは行わない。
なお、有料化に伴い、ラック、転倒防止柵、利用案内看板等の駐輪設備の整備が必要である。

駐車台数・放置台数

測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体	ピーク時乗入台数			収容台数
		駐車	放置	
計	158	150	8	140
自転車	156	148	8	140
原付	2	2	0	0



海側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	53	50	3	47
自転車	52	49	3	47
原付	1	1	0	0

山側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	105	100	5	93
自転車	104	99	5	93
原付	1	1	0	0

◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	1,790 人／日

(H26千葉市統計書)

【需要推計】

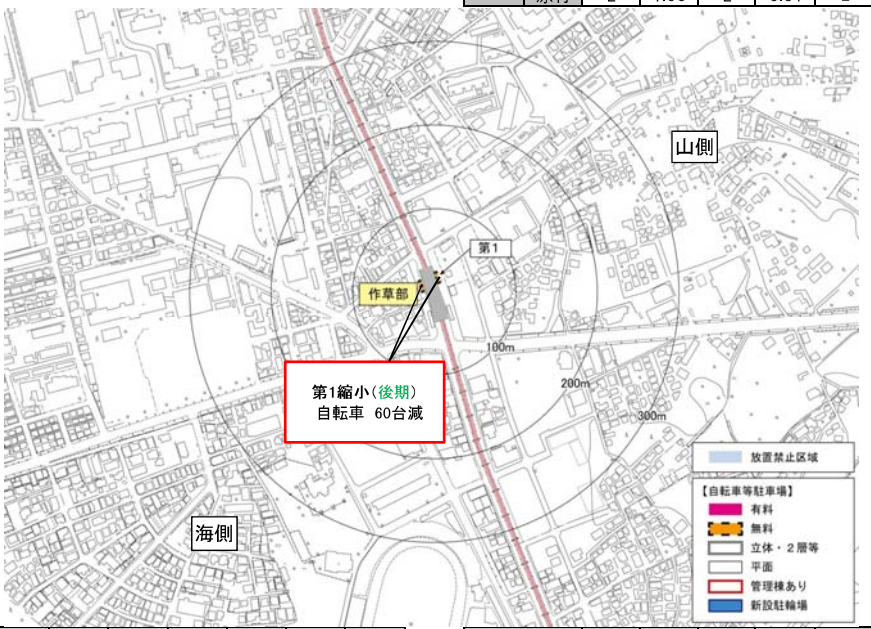
作草部駅周辺では、計画目標年次(平成33年)の乗入台数は158台と推計している。また、無料駐輪場を有料化した場合、乗入台数に減少が見込まれることから、乗入推計においては有料化による影響を考慮し、乗入台数を82台と推計する。現在、収容台数は140台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体	自転車	原付	海側	自転車	原付	山側	自転車	原付
		1.00	1.00		1.00	1.00		1.00	1.00

無料駐輪場の有料化による乗入台数低下の割合	自転車	原付
	51%	51%

整備計画図

全体	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	158	—	158	—	82	140	-
自転車	156	1.00	156	0.51	80	140	-
原付	2	1.00	2	0.51	2	0	2



海側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	53	—	53	—	28	47	—
自転車	52	1.00	52	0.51	27	47	—
原付	1	1.00	1	0.51	1	0	1

山側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	新規需要台数	推計台数	収容台数	不足台数
計	105	—	105	—	54	93	-
自転車	104	1.00	104	0.51	53	93	-
原付	1	1.00	1	0.51	1	0	1

◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数 現況(内原付)	台数 整備(内原付)	台数 計(内原付)	内 一時利用 現況(内原付)	内 一時利用 計画(内原付)	整備時期	主体 用地	主体 整備	主体 運営
海側	第1	縮小	47 (0)	-20 (0)	27 (0)	0 (0)	0 (0)	後期	市	市	市
	計		47 (0)	-20 (0)	27 (0)	0 (0)	0 (0)				
山側	第1	縮小	93 (0)	-40 (0)	53 (0)	0 (0)	0 (0)	後期	市	市	市
計			93 (0)	-40 (0)	53 (0)	0 (0)	0 (0)				
駅計			140 (0)	-60 (0)	80 (0)	0 (0)	0 (0)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33

千葉都市モノレール2号線

天台駅

【現　況】

天台駅は、1日平均乗車人員は約1,800人、自転車等の乗入台数は145台である。
駐輪場は1箇所設置しており、収容台数は216台となっている。
なお、駐輪場は、無料となっている。

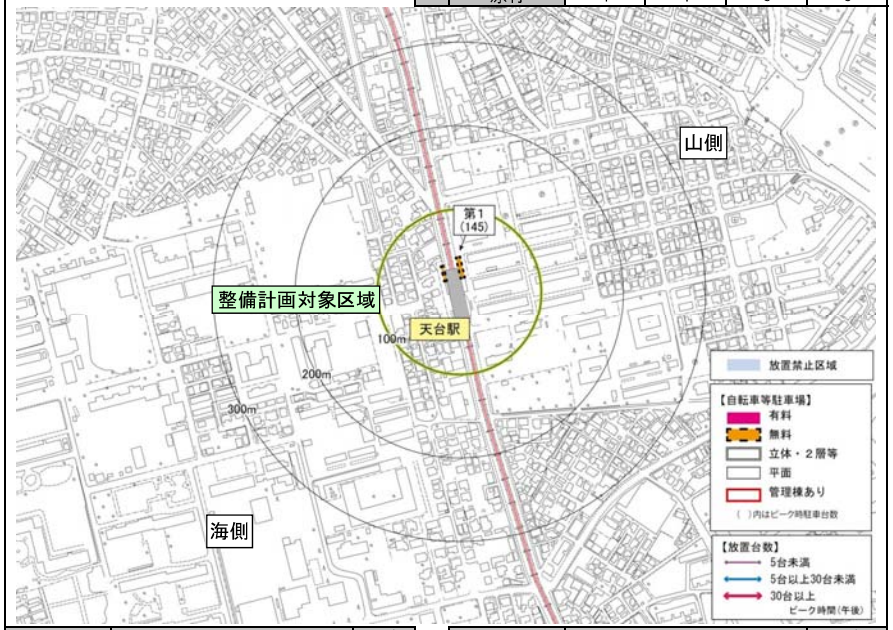
【整備計画】

受益者負担金の原則に基づき、有料化を検討する。また、有料化の時期に合わせて放置禁止区域を指定する。
推計台数が収容台数を下回ることから、第1駐輪場の縮小により対応する。第1駐輪場の縮小にあたっては、路上駐輪場であることから、原付の受入れは行わない。
なお、有料化に伴い、既存駐輪場では、ラック、転倒防止柵、利用案内看板等の駐輪設備の整備が必要である。

駐車台数・放置台数

測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体	ピーク時乗入台数			収容台数
		駐車	放置	
計	145	145	0	216
自転車	144	144	0	216
原付	1	1	0	0



海側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	73	73	0	108
自転車	72	72	0	108
原付	1	1	0	0

山側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	72	72	0	108
自転車	72	72	0	108
原付	0	0	0	0

◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	1,769 人／日

（H26千葉市統計書）

【需要推計】

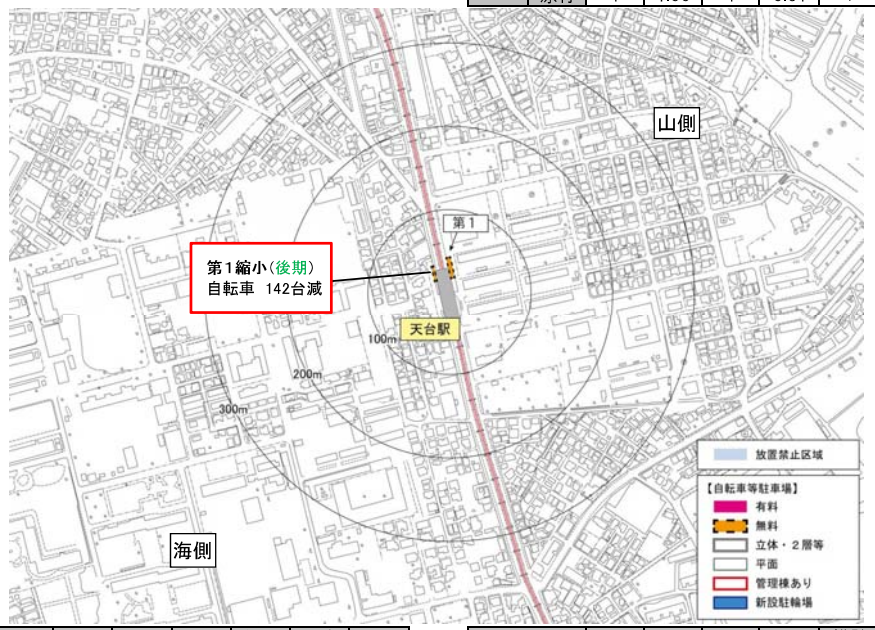
天台駅周辺では、計画目標年次（平成33年）の乗入台数は145台と推計している。また、無料駐輪場を有料化した場合、乗入台数に減少が見込まれることから、需要推計においては有料化による影響を考慮し、乗入台数を75台と推計する。現在、収容台数は216台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体	自転車	原付	海側	自転車	原付	山側	自転車	原付
		1.00	1.00		1.00	1.00		1.00	1.00

無料駐輪場の有料化による乗入台数低下の割合	自転車	原付
	51%	51%

整備計画図

全体	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	145	—	145	—	75	216	−
自転車	144	1.00	144	0.51	74	216	−
原付	1	1.00	1	0.51	1	0	1



海側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	73	—	73	—	38	108	—
自転車	72	1.00	72	0.51	37	108	—
原付	1	1.00	1	0.51	1	0	1

山側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	72	—	72	—	37	108	−
自転車	72	1.00	72	0.51	37	108	−
原付	0	1.00	0	0.51	0	0	−

◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数 現況(内原付)	台数 整備(内原付)	台数 計(内原付)	内 一時利用 現況(内原付)	内 一時利用 計画(内原付)	整備時期	主体 用地	主体 整備	主体 運営
海側	第1	縮小	108 (0)	-71 (0)	37 (0)	0 (0)	0 (0)	後期	市	市	市
	計		108 (0)	-71 (0)	37 (0)	0 (0)	0 (0)				
山側	第1	縮小	108 (0)	-71 (0)	37 (0)	0 (0)	0 (0)	後期	市	市	市
計			108 (0)	-71 (0)	37 (0)	0 (0)	0 (0)				
駅計			216 (0)	-142 (0)	74 (0)	0 (0)	0 (0)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33

千葉都市モノレール2号線

穴川駅

【現　況】

穴川駅は、1日平均乗車人員は約1,600人、自転車等の乗入台数は323台である。
駐輪場は1箇所設置しており、収容台数は243台となっている。
なお、駐輪場は無料となっている。

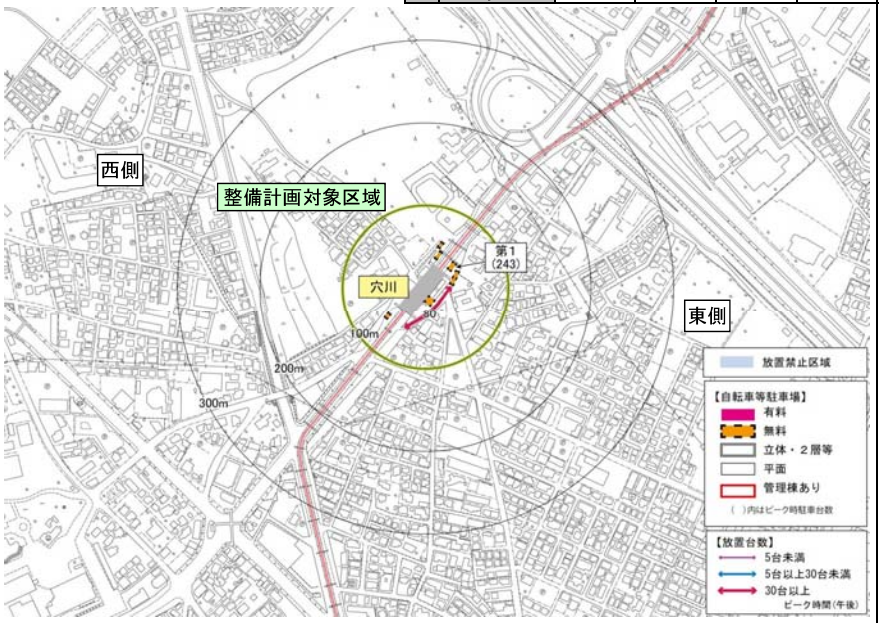
【整備計画】

受益者負担の原則に基づき、有料化を検討する。また、有料化の時期に合わせて放置禁止区域を指定する。
西側及び東側では、推計台数が収容台数を下回ることから、第1駐輪場の縮小により対応する。第1駐輪場の縮小にあたっては、路上駐輪場であることから、原付の受入れは行わない。
なお、有料化に伴い、ラック、転倒防止柵、利用案内看板等の駐輪設備の整備が必要である。

駐車台数・放置台数

測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体	ピーク時乗入台数			収容台数
		駐車	放置	
計	323	243	80	243
自転車	304	237	67	243
原付	19	6	13	0



西側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	151	151	0	151
自転車	148	148	0	151
原付	3	3	0	0

東側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	172	92	80	92
自転車	156	89	67	92
原付	16	3	13	0

◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	1,563 人／日

(H26千葉市統計書)

【需要推計】

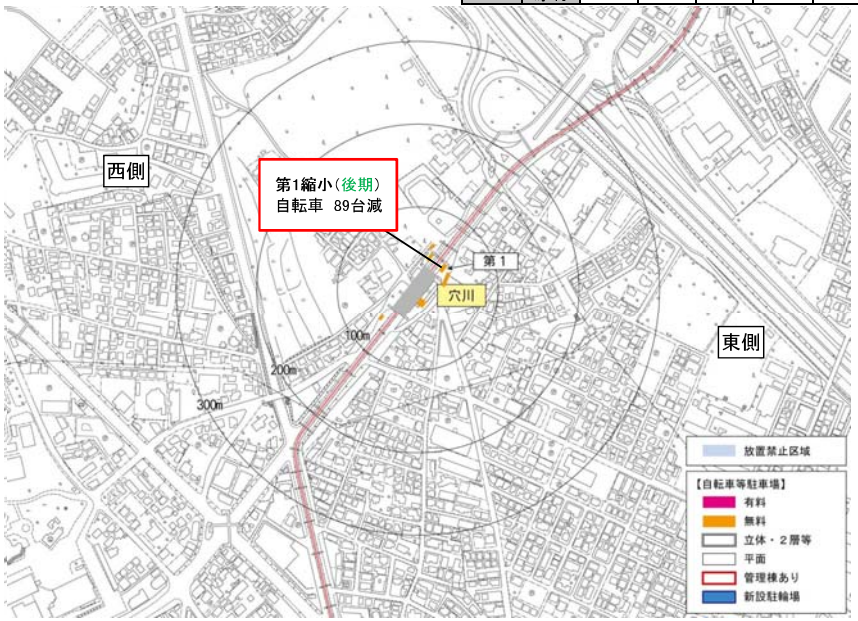
穴川駅周辺では、計画目標年次(平成33年)の乗入台数は321台と推計している。また、無料駐輪場を有料化した場合、乗入台数に減少が見込まれることから、需要推計においては有料化による影響を考慮し、乗入台数を164台と推計する。現在、収容台数は243台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体	自転車	原付	西側	自転車	原付	東側	自転車	原付
		0.99	1.00		1.00	1.00		0.99	0.99

無料駐輪場の有料化による乗入台数低下の割合	自転車	原付
	51%	51%

整備計画図

全体	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	新規需要台数	推計台数	収容台数	不足台数
計	323	—	321	—	164	243	−
自転車	304	0.99	302	0.51	154	243	−
原付	19	1.00	19	0.51	10	0	10



西側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	151	—	151	—	77	151	—
自転車	148	1.00	148	0.51	75	151	—
原付	3	1.00	3	0.51	2	0	2

東側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	172	—	170	—	87	92	−
自転車	156	0.99	154	0.51	79	92	−
原付	16	0.99	16	0.51	8	0	8

◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数 現況(内原付)	台数 整備(内原付)	台数 計(内原付)	内 一時利用 現況(内原付)	内 一時利用 計画(内原付)	整備時期	主体 用地	主体 整備	主体 運営
西側	第1	縮小	151 (0)	-76 (0)	75 (0)	0 (0)	0 (0)	後期	市	市	市
	計		151 (0)	-76 (0)	75 (0)	0 (0)	0 (0)				
東側	第1	縮小	92 (0)	-13 (0)	79 (0)	0 (0)	0 (0)	後期	市	市	市
計			92 (0)	-13 (0)	79 (0)	0 (0)	0 (0)				
駅計			243 (0)	-89 (0)	154 (0)	0 (0)	0 (0)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33

千葉都市モノレール2号線

スポーツセンター駅

【現　況】

スポーツセンター駅は、1日平均乗車人員は約2,500人、自転車等の乗入台数は253台である。
駐輪場は2箇所設置しており、収容台数は557台となっている。

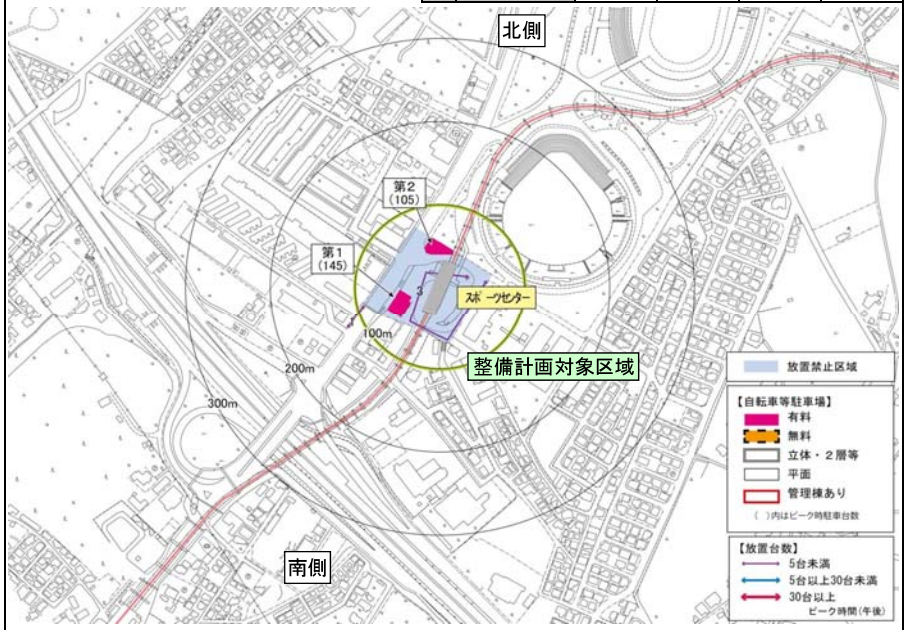
【整備計画】

北側及び南側では、推計台数が収容台数を下回ることから、駐輪場の整備は行わない。

駐車台数・放置台数

測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体	ピーク時乗入台数			収容台数
		駐車	放置	
計	253	250	3	557
自転車	247	244	3	527
原付	6	6	0	30



北側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	106	105	1	177
自転車	106	105	1	177
原付	0	0	0	0

南側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	147	145	2	380
自転車	141	139	2	350
原付	6	6	0	30

◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	2,450 人／日

（H26千葉市統計書）

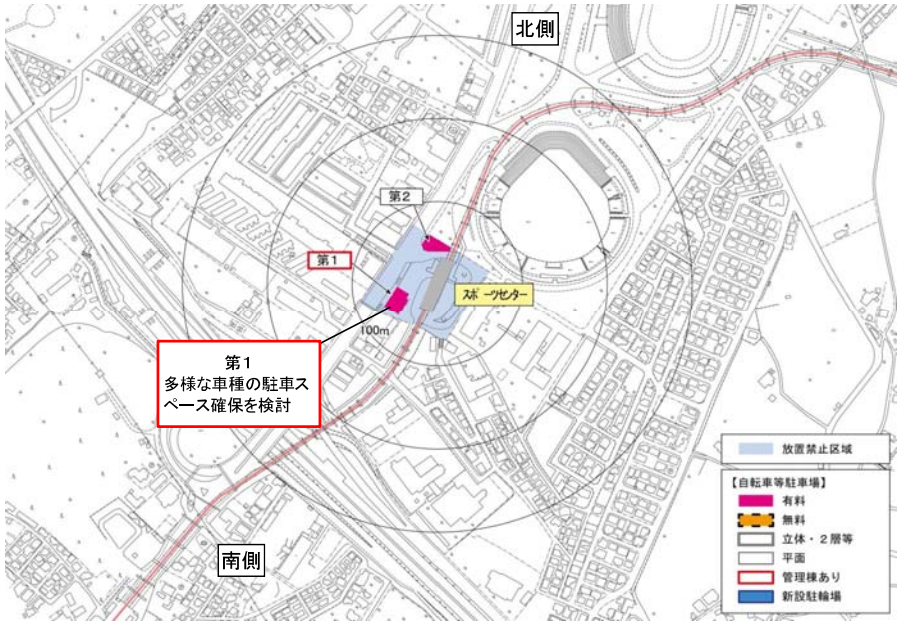
【需要推計】

スポーツセンター駅周辺では、計画目標年次(平成33年)の乗入台数を267台と推計しており、現在、収容台数は557台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体	自転車	原付	北側	自転車	原付	南側	自転車	原付
		1.05	1.17		0.99	0.99		1.10	1.10

整備計画図

全体	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	新規需要台数	推計台数	収容台数	不足台数
計	253	—	267	0	267	557	−
自転車	247	1.05	260	0	260	527	−
原付	6	1.17	7	0	7	30	−



北側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	新規需要台数	推計台数	収容台数	不足台数
計	106	—	105	0	105	177	—
自転車	106	0.99	105	0	105	177	—
原付	0	0.99	0	0	0	0	—

南側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	新規需要台数	推計台数	収容台数	不足台数
計	147	—	162	0	162	380	−
自転車	141	1.10	155	0	155	350	−
原付	6	1.10	7	0	7	30	−

◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数 現況(内原付)	台数 整備(内原付)	台数 計(内原付)	内一時利用 現況(内原付)	内一時利用 計画(内原付)	整備時期	主体 用地	主体 整備	主体 運営
北側	第2		177 (0)		177 (0)	0 (0)	0 (0)	—	市	市	市
	計		177 (0)	0 (0)	177 (0)	0 (0)	0 (0)				
南側	第1		380 (30)		380 (30)	100 (10)	100 (10)	—	市	市	市
	計		380 (30)	0 (0)	380 (30)	100 (10)	100 (10)				
駅計			557 (30)	0 (0)	557 (30)	100 (10)	100 (10)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33

千葉都市モノレール2号線

動物公園駅

【現　況】

動物公園駅は、1日平均乗車人員は約700人、自転車等の乗入台数は61台である。
駐輪場は1箇所設置しており、収容台数は89台となっている。
なお、駐輪場は無料となっている。

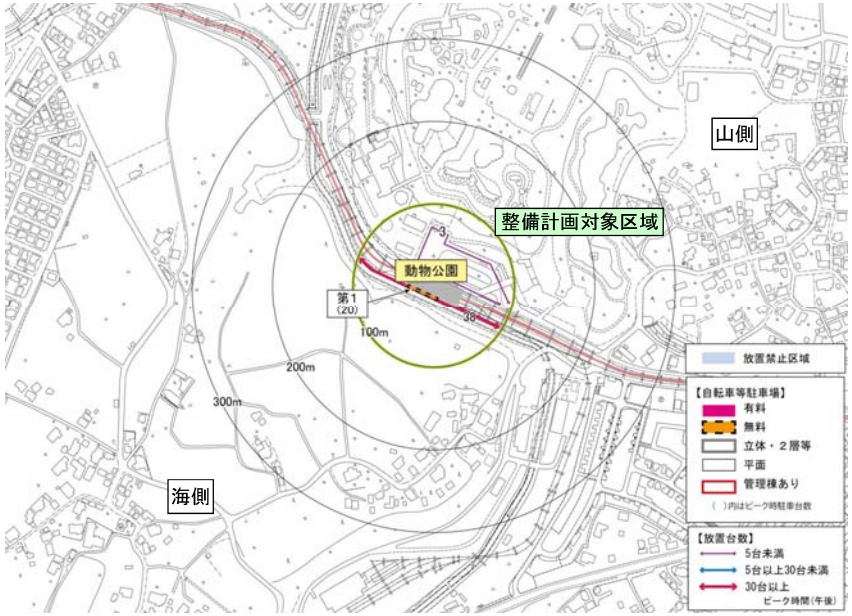
【整備計画】

受益者負担の原則に基づき、有料化を検討する。また、有料化の時期に合わせて放置禁止区域を指定する。
駅全体では、推計台数が収容台数を下回ることから、第1駐輪場の縮小により対応する。第1駐輪場の縮小にあたっては、路上駐輪場であることから、原付の受入れは行わない。
なお、有料化の際には、ラック、転倒防止柵、利用案内看板などの駐輪設備の整備が必要である。

駐車台数・放置台数

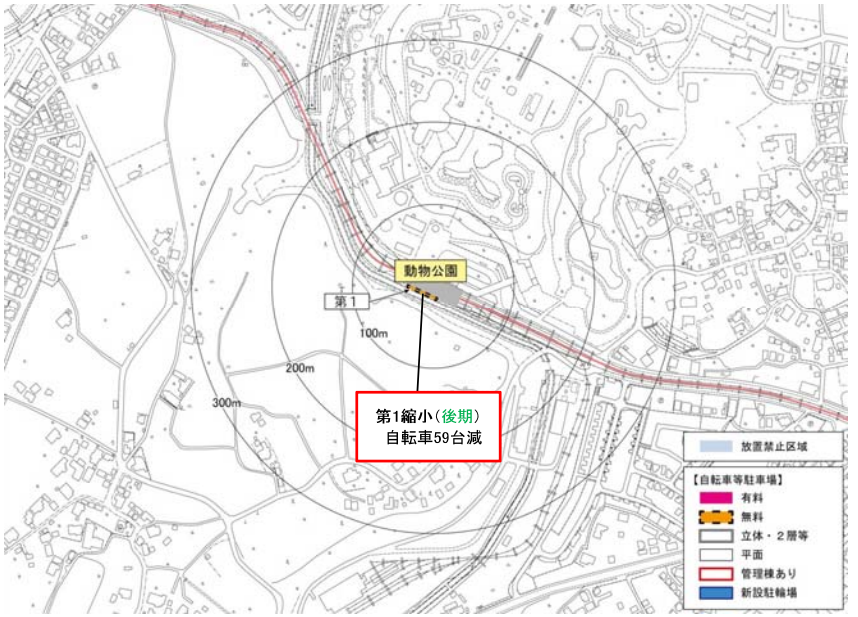
測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体		ピーク時乗入台数			収容台数
			駐車	放置	
計		61	20	41	89
	自転車	58	18	40	89
	原付	3	2	1	0



整備計画図

全体		乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計		61	—	61	—	32	89	−
	自転車	58	1.00	58	0.51	30	89	−
	原付	3	1.00	3	0.51	2	0	2



◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	664 人／日

（H26千葉市統計書）

【需要推計】

動物公園駅周辺では、計画目標年次（平成33年）の乗入台数は61台と推計している。また、無料駐輪場を有料化した場合、乗入台数に減少が見込まれることから、需要推計において有料化による影響を考慮し、乗入台数を32台と推計する。現在、収容台数は89台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体	自転車	原付
		1.00	1.00

無料駐輪場の有料化による乗入台数低下の割合	自転車	原付
	51%	51%

◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数			内　一時利用		整備時期	主体		
			現況(内原付)	整備(内原付)	計(内原付)	現況(内原付)	計画(内原付)		用地	整備	運営
	第1	縮小	89　(0)	−59　(0)	30　(0)	0　(0)	0　(0)	後期	市	市	市
	計		89　(0)	−59　(0)	30　(0)	0　(0)	0　(0)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33

千葉都市モノレール2号線

みつわ台駅

【現　況】

みつわ台駅は、1日平均乗車人員は約1,700人、自転車等の乗入台数は226台である。
駐輪場は北側に1箇所設置しており、収容台数は500台となっている。
なお、駐輪場は無料となっている。

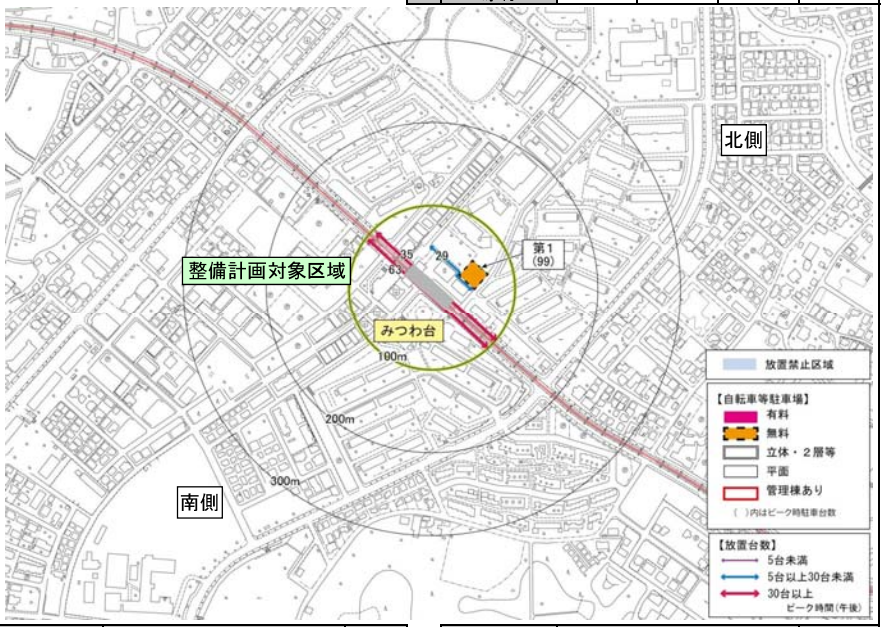
【整備計画】

受益者負担の原則に基づき、有料化を検討する。また、有料化の時期に合わせて放置禁止区域を指定する。
南側では、推計台数が収容台数を上回ることから、幅広の歩道を活用した第2駐輪場を整備するものとする。
北側では、推計台数が収容台数を下回ることから、第1駐輪場の縮小、幅広の歩道を活用した第2駐輪場を整備するものとする。第2駐輪場は、路上の駐輪場整備となることから、原付は第1駐輪場で受け入れるものとする。
なお、有料化に伴い、ラック、転倒防止柵、利用案内看板等の駐輪設備の整備が必要である。

駐車台数・放置台数

測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体	ピーク時乗入台数			収容台数
		駐車	放置	
計	226	99	127	500
自転車	207	84	123	480
原付	19	15	4	20



南側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	63	0	63	0
自転車	61	0	61	0
原付	2	0	2	0

北側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	163	99	64	500
自転車	146	84	62	480
原付	17	15	2	20

◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	1,711 人／日

（H26千葉市統計書）

【需要推計】

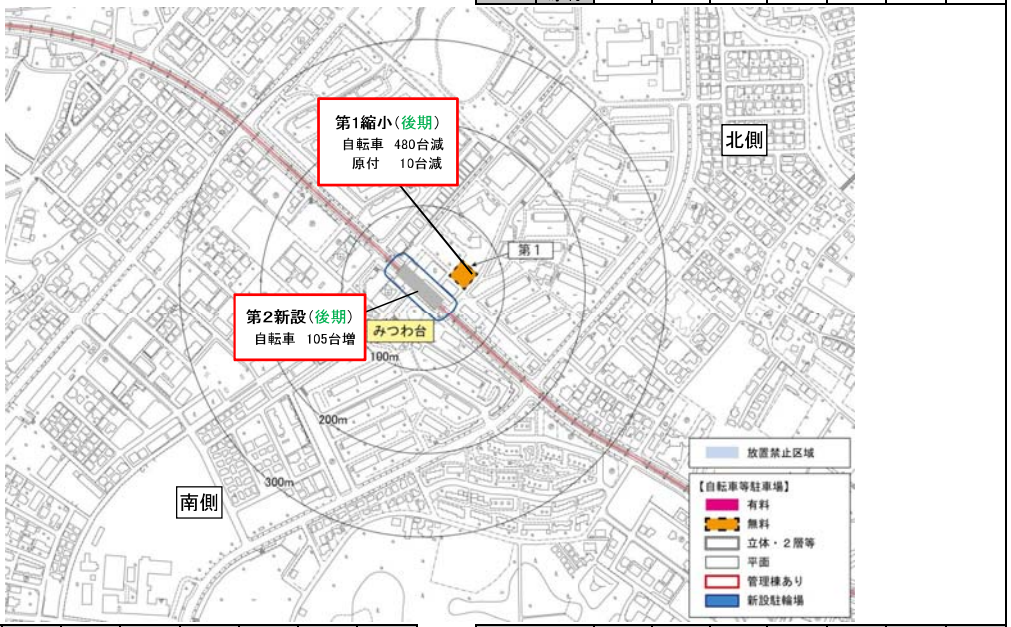
みつわ台駅周辺では、計画目標年次(平成33年)の乗入台数は226台を見込んでいる。また、無料駐輪場を有料化した場合、乗入台数に減少が見込まれることから、需要推計においては有料化による影響を考慮し、乗入台数を115台と推計する。現在、収容台数は500台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体	自転車	原付	南側	自転車	原付	北側	自転車	原付
		1.00	1.00		1.00	1.00		1.00	1.00

無料駐輪場の有料化による乗入台数低下の割合	自転車	原付
	51%	51%

整備計画図

全体	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	226	—	226	—	115	500	−
自転車	207	1.00	207	0.51	105	480	−
原付	19	1.00	19	0.51	10	20	−



南側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	63	—	63	—	32	0	32
自転車	61	1.00	61	0.51	31	0	31
原付	2	1.00	2	0.51	1	0	1

北側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	163	—	163	—	83	500	−
自転車	146	1.00	146	0.51	74	480	−
原付	17	1.00	17	0.51	9	20	−

◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数 現況(内原付)	台数 整備(内原付)	台数 計(内原付)	内一時利用 現況(内原付)	内一時利用 計画(内原付)	整備時期	主体 用地	主体 整備	主体 運営
南側	第2	新設　路上P		31　(0)	31　(0)		0　(0)	後期	市	市	市
	計		0　(0)	31　(0)	31　(0)	0　(0)	0　(0)				
北側	第1	縮小	500　(20)	-490　(-10)	10　(10)	0　(0)	0　(0)	後期	市	市	市
	第2	新設　路上P		74　(0)	74　(0)		0　(0)	後期	市	市	市
計			500　(20)	-416　(-10)	84　(10)	0　(0)	0　(0)				
駅計			500　(20)	-385　(-10)	115　(10)	0　(0)	0　(0)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33

千葉都市モノレール2号線

桜木駅

【現　況】

桜木駅は、1日平均乗車人員は約1,600人、自転車等の乗入台数は344台である。
駐輪場は1箇所設置しており、収容台数は300台となっている。
なお、駐輪場は無料となっている。

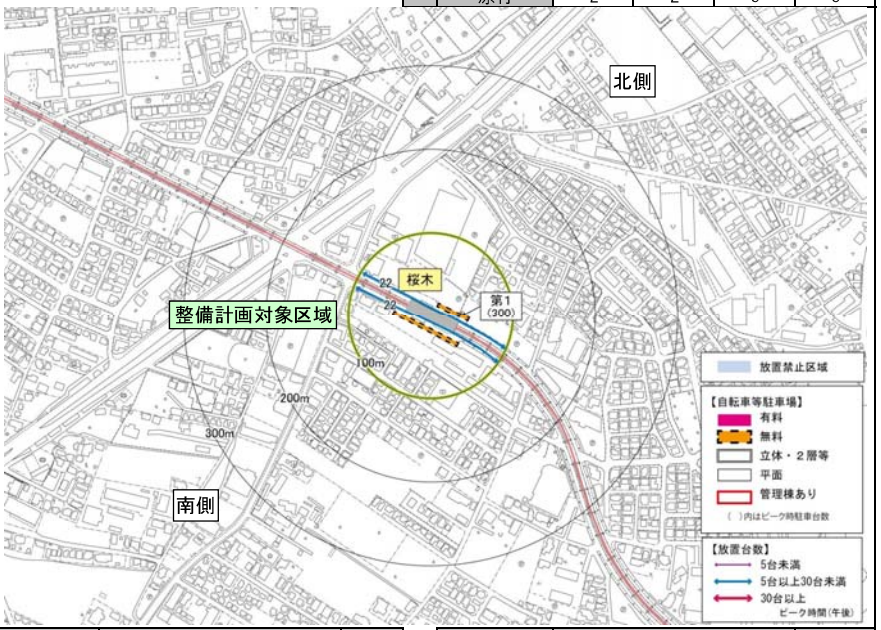
【整備計画】

受益者負担の原則に基づき、有料化を検討する。また、有料化の時期に合わせて放置禁止区域を指定する。
南側及び北側では、推計台数が収容台数を下回ることから、第1駐輪場の縮小により対応する。第1駐輪場は路上駐輪場であることから、原付の受入れは行わない。
なお、有料化に伴い、ラック、転倒防止柵、利用案内看板等の駐輪設備の整備が必要である。

駐車台数・放置台数

測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体	ピーク時乗入台数			収容台数
		駐車	放置	
計	344	300	44	300
自転車	342	298	44	300
原付	2	2	0	0



南側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	172	150	22	150
自転車	171	149	22	150
原付	1	1	0	0

北側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	172	150	22	150
自転車	171	149	22	150
原付	1	1	0	0

◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	1,572 人／日

(H26千葉市統計書)

【需要推計】

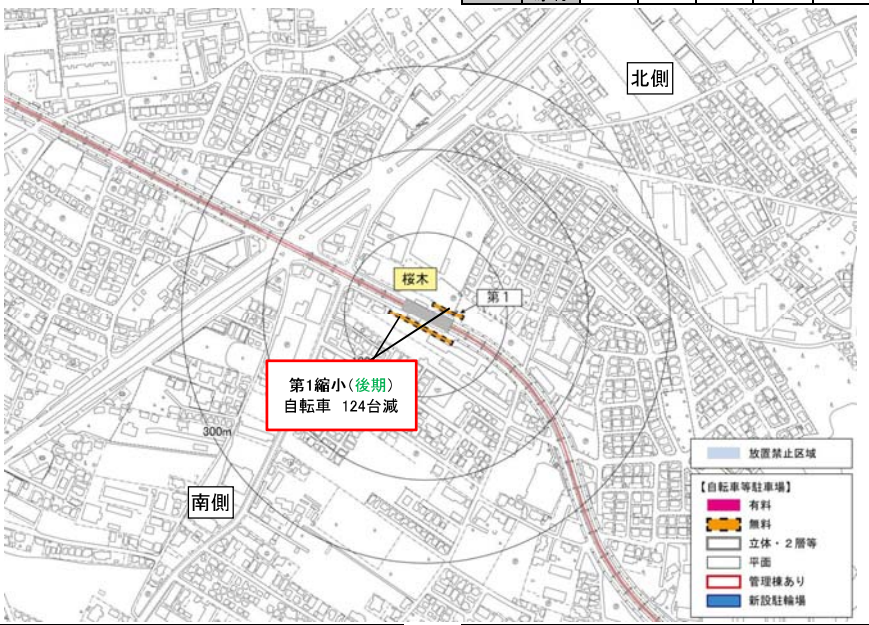
桜木駅周辺では、計画目標年次(平成33年)の乗入台数は348台と推計している。また、無料駐輪場を有料化した場合、乗入台数に減少が見込まれることから、需要推計においては有料化による影響を考慮し、乗入台数を178台と推計する。現在、収容台数は300台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体	自転車	原付	南側	自転車	原付	北側	自転車	原付
		1.01	1.00		1.01	1.01		1.01	1.01

無料駐輪場の有料化による乗入台数低下の割合	自転車	原付
	51%	51%

整備計画図

全体	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	344	—	348	—	178	300	−
自転車	342	1.01	346	0.51	176	300	−
原付	2	1.00	2	0.51	2	0	2



南側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	172	—	174	—	89	150	—
自転車	171	1.01	173	0.51	88	150	—
原付	1	1.01	1	0.51	1	0	1

北側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	172	—	174	—	89	150	−
自転車	171	1.01	173	0.51	88	150	−
原付	1	1.01	1	0.51	1	0	1

◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数 現況(内原付)	台数 整備(内原付)	台数 計(内原付)	内 一時利用 現況(内原付)	内 一時利用 計画(内原付)	整備時期	主体 用地	主体 整備	主体 運営
南側	第1	縮小	150 (0)	-62 (0)	88 (0)	0 (0)	0 (0)	後期	市	市	市
	計		150 (0)	-62 (0)	88 (0)	0 (0)	0 (0)				
北側	第1	縮小	150 (0)	-62 (0)	88 (0)	0 (0)	0 (0)	後期	市	市	市
計			150 (0)	-62 (0)	88 (0)	0 (0)	0 (0)				
駅計			300 (0)	-124 (0)	176 (0)	0 (0)	0 (0)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33

千葉都市モノレール2号線

小倉台駅

【現　況】

小倉台駅は、1日平均乗車人員は約1,400人、自転車等の乗入台数は387台である。
駐輪場は南側に1箇所、北側に2箇所設置しており、収容台数は470台となっている。
なお、駐輪場は無料駐輪場となっている。

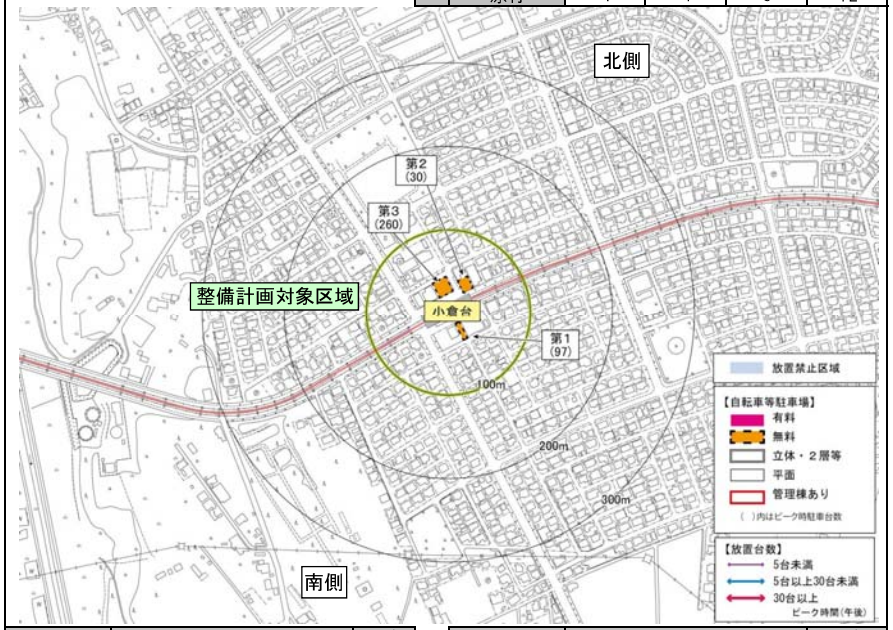
【整備計画】

受益者負担の原則に基づき、有料化を検討する。また、有料化の時期に合わせて放置禁止区域を指定する。
南側では、推計台数が収容台数を下回ることから、駐輪場の整備は行わないものとする。
北側では、推計台数が収容台数を下回ることから、第2駐輪場の廃止、第3駐輪場の縮小により対応する。原付は第1へ誘導し対応する。
なお、有料化に伴い、ラック、転倒防止柵、利用案内看板などの駐輪設備の整備が必要である。

駐車台数・放置台数

測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体	ピーク時乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	387	387	0	470
自転車	383	383	0	458
原付	4	4	0	12



南側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	165	165	0	200
自転車	163	163	0	196
原付	2	2	0	4

北側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	222	222	0	270
自転車	220	220	0	262
原付	2	2	0	8

◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	1,404 人／日

（H26千葉市統計書）

【需要推計】

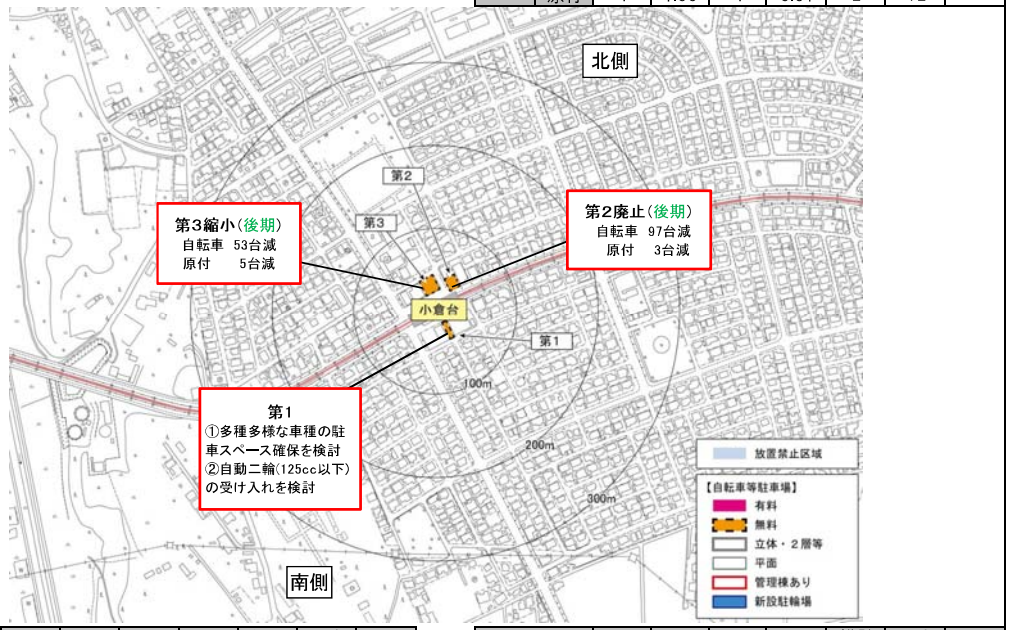
小倉台駅周辺では、計画目標年次（平成33年）の乗入台数を389台と推計している。また、無料駐輪場を有料化した場合、乗入台数に減少が見込まれることから、需要推計においては有料化による影響を考慮し、乗入台数を198台と推計する。現在、収容台数は470台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体	自転車	原付	南側	自転車	原付	北側	自転車	原付
		1.01	1.00		1.01	1.01		1.00	1.00

無料駐輪場の有料化による乗入台数低下の割合	自転車	原付
	51%	51%

整備計画図

全体	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	387	—	389	—	198	470	−
自転車	383	1.01	385	0.51	196	458	−
原付	4	1.00	4	0.51	2	12	−



南側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	165	—	167	—	85	200	—
自転車	163	1.01	165	0.51	84	196	—
原付	2	1.01	2	0.51	1	4	—

北側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	222	—	222	—	113	270	−
自転車	220	1.00	220	0.51	112	262	−
原付	2	1.00	2	0.51	1	8	−

◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数 現況(内原付)	台数 整備(内原付)	台数 計(内原付)	内一時利用 現況(内原付)	内一時利用 計画(内原付)	整備時期	主体 用地	主体 整備	主体 運営
南側	第1		200 (4)		200 (4)	0 (0)	0 (0)	—	市	市	市
	計		200 (4)	0 (0)	200 (4)	0 (0)	0 (0)				
北側	第2	廃止	100 (3)	−100 (−3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	後期	市	市	市
	第3	縮小	170 (5)	−58 (−5)	112 (0)	0 (0)	0 (0)	後期	市	市	市
	計		270 (8)	−158 (−8)	112 (0)	0 (0)	0 (0)				
駅計			470 (12)	−158 (−8)	312 (4)	0 (0)	0 (0)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33

千葉都市モノレール2号線

千城台北駅

【現　況】

千城台北駅は、1日平均乗車人員は約900人、自転車等の乗入台数は254台である。
駐輪場は1箇所設置しており、収容台数は250台となっている。
なお、駐輪場は無料となっている。

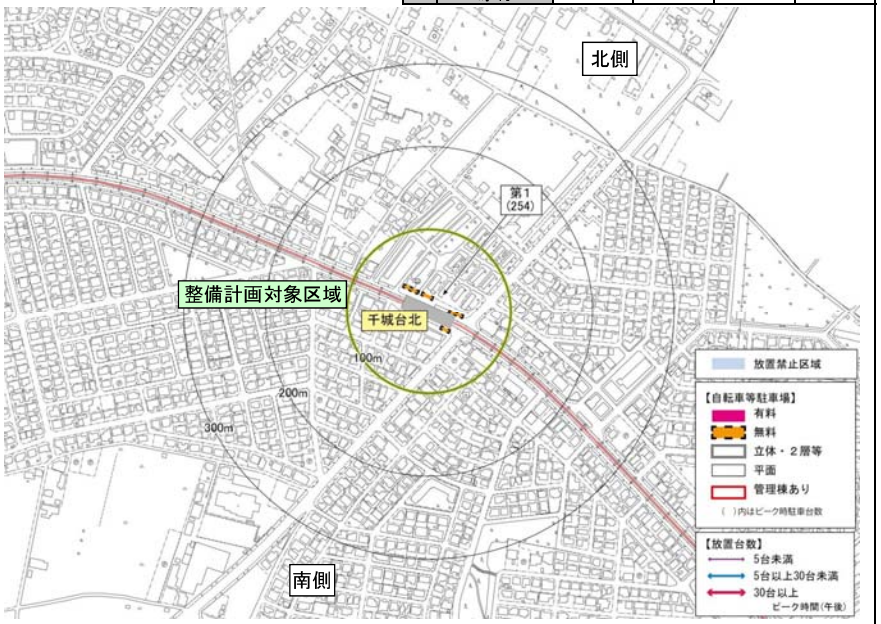
【整備計画】

受益者負担の原則に基づき、有料化を検討する。また、有料化の時期に合わせて放置禁止区域を指定する。
駅全体では、推計台数が収容台数を下回ることから、第1駐輪場の縮小により対応する。第1駐輪場の縮小にあたっては、路上駐輪場であることから、原付の受入れは行わない。
なお、有料化の際には、ラック、転倒防止柵、利用案内看板等の駐輪設備の整備が必要である。

駐車台数・放置台数

測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体	ピーク時乗入台数			収容台数
		駐車	放置	
計	254	254	0	250
自転車	253	253	0	250
原付	1	1	0	0



南側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	50	50	0	50
自転車	50	50	0	50
原付	0	0	0	0

北側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	204	204	0	200
自転車	203	203	0	200
原付	1	1	0	0

◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	932 人／日

（H26千葉市統計書）

【需要推計】

千城台北駅周辺では、計画目標年次（平成33年）の乗入台数は255台と推計している。また、無料駐輪場を有料化した場合、乗入台数に減少が見込まれることから、需要推計において有料化による影響を考慮し、乗入台数を131台と推計する。現在、収容台数は250台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体	自転車	原付	南側	自転車	原付	北側	自転車	原付
		1.00	1.00		1.01	1.01		1.00	1.00

無料駐輪場の有料化による乗入台数低下の割合	自転車	原付
	51%	51%

整備計画図

全体	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	254	—	255	—	131	250	-
自転車	253	1.00	254	0.51	130	250	-
原付	1	1.00	1	0.51	1	0	1

南側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	50	—	51	—	26	50	—
自転車	50	1.01	51	0.51	26	50	—
原付	0	1.01	0	0.51	0	0	—

北側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	新規需要台数	推計台数	収容台数	不足台数
計	204	—	204	—	105	200	-
自転車	203	1.00	203	0.51	104	200	-
原付	1	1.00	1	0.51	1	0	1

◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数 現況(内原付)	台数 整備(内原付)	台数 計(内原付)	内 一時利用 現況(内原付)	内 一時利用 計画(内原付)	整備時期	主体 用地	主体 整備	主体 運営
南側	第1	縮小	50 (0)	-24 (0)	26 (0)	0 (0)	0 (0)	後期	市	市	市
	計		50 (0)	-24 (0)	26 (0)	0 (0)	0 (0)				
北側	第1	縮小	200 (0)	-96 (0)	104 (0)	0 (0)	0 (0)	後期	市	市	市
計			200 (0)	-96 (0)	104 (0)	0 (0)	0 (0)				
駅計			250 (0)	-120 (0)	130 (0)	0 (0)	0 (0)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33

千葉都市モノレール2号線

千城台駅

【現　況】

千城台駅は、千葉都市モノレール2号線の最終駅である。1日平均乗車人員は約4,200人となっており、JR線との連絡駅である千葉駅、都賀駅、千葉みなと駅を除くと最も多い駅となっており、自転車等の乗入台数は385台である。駐輪場は1箇所設置しており、収容台数は1,400台となっている。

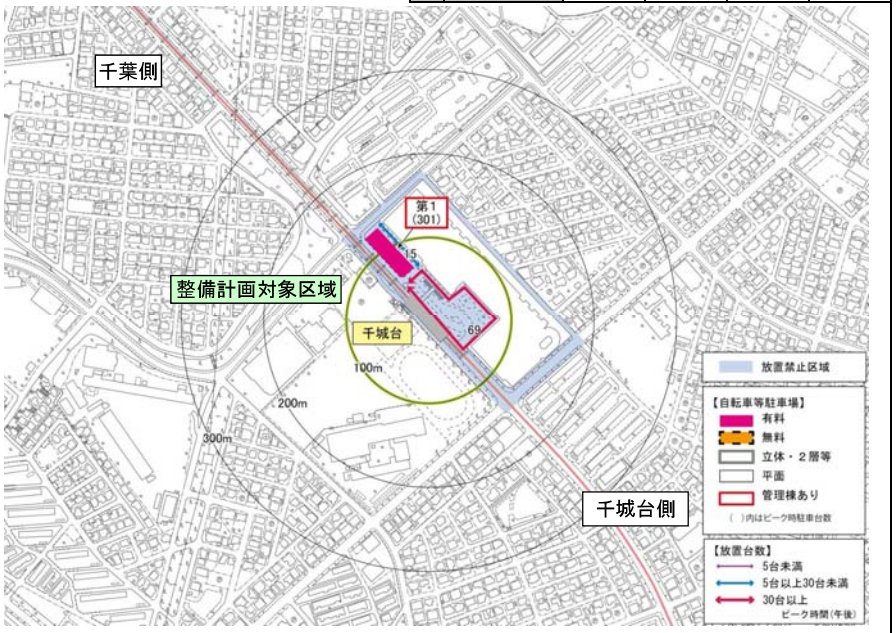
【整備計画】

千葉側では、推計台数が収容台数を下回ることから、第1駐輪場の縮小を検討する。
千城台側では、駐輪場がなく、収容台数が不足することから、第2駐輪場の新設により対応する。なお、第2駐輪場に電磁ロック式ラックを導入するとともに第1駐輪場の管理棟の廃止を検討する。

駐車台数・放置台数

測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体	ピーク時乗入台数			収容台数
		駐車	放置	
計	385	301	84	1,400
自転車	374	290	84	1,250
原付	11	11	0	150



千葉側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	343	301	42	1,400
自転車	332	290	42	1,250
原付	11	11	0	150

千城台側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	42	0	42	0
自転車	42	0	42	0
原付	0	0	0	0

◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	4,218 人／日

（H26千葉市統計書）

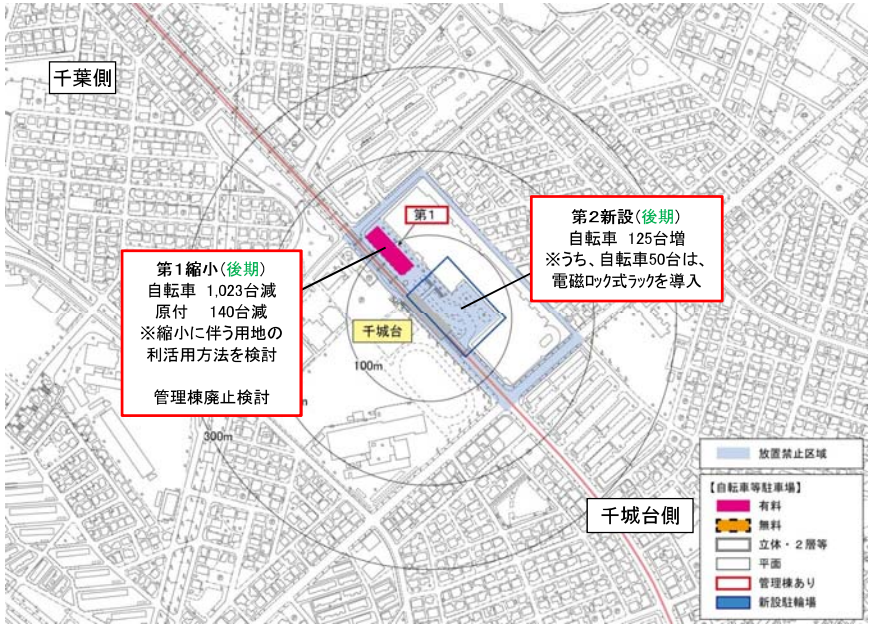
【需要推計】

千城台駅周辺では、計画目標年次（平成33年）の乗入台数を362台と推計しており、現在の収容台数は1,400台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体	自転車	原付	千葉側	自転車	原付	千城台側	自転車	原付
		0.94	0.91		0.94	0.94		0.96	0.96

整備計画図

全体	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	新規需要台数	推計台数	収容台数	不足台数
計	385	—	362	0	362	1,400	−
自転車	374	0.94	352	0	352	1,250	−
原付	11	0.91	10	0	10	150	−



千葉側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	新規需要台数	推計台数	収容台数	不足台数
計	343	—	322	0	322	1,400	—
自転車	332	0.94	312	0	312	1,250	—
原付	11	0.94	10	0	10	150	—

千城台側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	新規需要台数	推計台数	収容台数	不足台数
計	42	—	40	0	40	0	40
自転車	42	0.96	40	0	40	0	40
原付	0	0.96	0	0	0	0	−

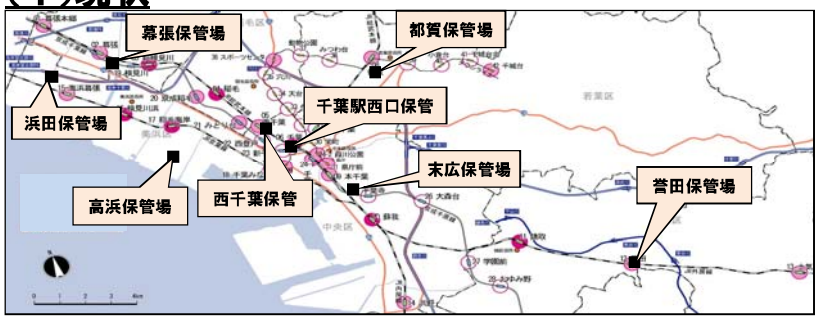
◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数 現況(内原付)	台数 整備(内原付)	台数 計(内原付)	内 一時利用 現況(内原付)	内 一時利用 計画(内原付)	整備時期	主体 用地	主体 整備	主体 運営
千葉側	第1	縮小、管理棟廃止検討	1,400 (150)	-1,163 (-140)	237 (10)	100 (10)	0 (0)	後期	市	市	市
	計		1,400 (150)	-1,163 (-140)	237 (10)	100 (10)	0 (0)				
千城台側	第2	新設、電磁ロック式ラック		125 (0)	125 (0)		50 (0)	後期	市	市	市
	計		0 (0)	125 (0)	125 (0)	0 (0)	50 (0)				
駅計			1,400 (150)	-1,038 (-140)	362 (10)	100 (10)	50 (0)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33

4－3 自転車保管場の整備計画

(1)現状



■保管場の設置状況
現在、末広自転車保管場をはじめ、市内に8箇所、収容台数約12,200台の保管場を設置している。
（H27.6現在）

■放置自転車等の台数
市内各駅周辺の自転車等の放置台数は、約1,520台となっている。
（H27.6現在）

都賀

収容台数	900台
保管台数	412台
保管率	45.8%

駅	乗入台数	駐輪台数	放置
都賀駅	1,969	1,893	76
千葉公園駅	83	58	25
作草部駅	158	150	8
穴川駅	323	323	0
天台駅	145	145	0
スポーツセンター駅	253	250	3
動物公園駅	61	20	41
みつわ台駅	226	99	127
桜木駅	344	344	0
小倉台駅	387	387	0
千城台北駅	254	254	0
千城台駅	413	391	22

浜田

収容台数	1,700台
保管台数	428台
保管率	25.2%

駅名称	乗入	駐輪	放置
幕張本郷駅	2,317	2,278	39
海浜幕張駅	3,031	2,959	72
検見川浜駅	2,067	2,005	62

高浜

収容台数	3,500台
保管台数	532台
保管率	15.2%

駅	乗入台数	駐輪台数	放置
稲毛駅	3,982	3,925	57
稲毛海岸駅	2,818	2,748	70
千葉みなと駅	611	604	7
京成稲毛駅	405	398	7

幕張

収容台数	356台
保管台数	137台
保管率	38.5%

駅	乗入台数	駐輪台数	放置
幕張駅、京成幕張駅	2,072	2,062	10
新検見川駅	2,077	2,005	72
検見川駅	246	246	0

誉田

収容台数	1,200台
保管台数	202台
保管率	16.8%

駅	乗入台数	駐輪台数	放置
鎌取駅	3,379	3,353	26
誉田駅	857	855	2
土気駅	1,482	1,469	13
学園前駅	119	116	3
おゆみ野駅	185	183	2

末広

収容台数	3,700台
保管台数	1,104台
保管率	29.8%

駅	乗入台数	駐輪台数	放置
千葉駅の一部、栄町駅	2,164	2,064	100
本千葉駅	418	381	37
蘇我駅	4,439	4,420	19
東千葉駅	60	53	7
浜野駅	1,052	1,023	29
西登戸駅、新千葉駅	56	30	26
千葉中央駅、葭川公園駅、県庁前駅	319	19	300
千葉寺駅	151	150	1
大森台駅	108	108	0
市役所前駅	44	0	44

千葉駅西口

収容台数	200台
保管台数	31台
保管率	15.5%

駅	乗入台数	駐輪台数	放置
千葉駅の一部	1,760	1,723	37

西千葉

収容台数	661台
保管台数	275台
保管率	41.6%

駅	乗入台数	駐輪台数	放置
西千葉駅	939	795	144
みどり台駅	153	120	33

※保管率＝（保管台数／収容台数）×100%　保管台数:H27.12現在

(2)保管場の運営に関する課題

【現状】

放置自転車等の撤去頻度を増やすなど放置対策の強化を図ってきたことにより、放置台数はピーク時の10分の1まで減少した。現在、8箇所の保管場では、保管率が約16%～46%となっており、全体平均で約26%となっている。

放置台数の推移

平成 17 年 6 月（ピーク時）	15,143 台
平成 19 年 6 月（総合計画策定前）	9,612 台
平成 27 年 6 月	1,521 台

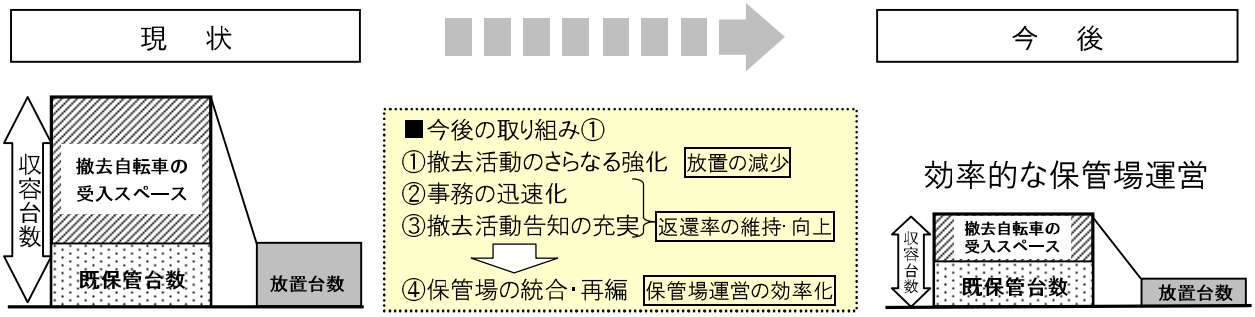
【課題】

放置自転車等の減少が図られた結果、保管場の収容能力に余裕が生じてきたことから、より効率的な施設の活用方法の検討が必要となっている。

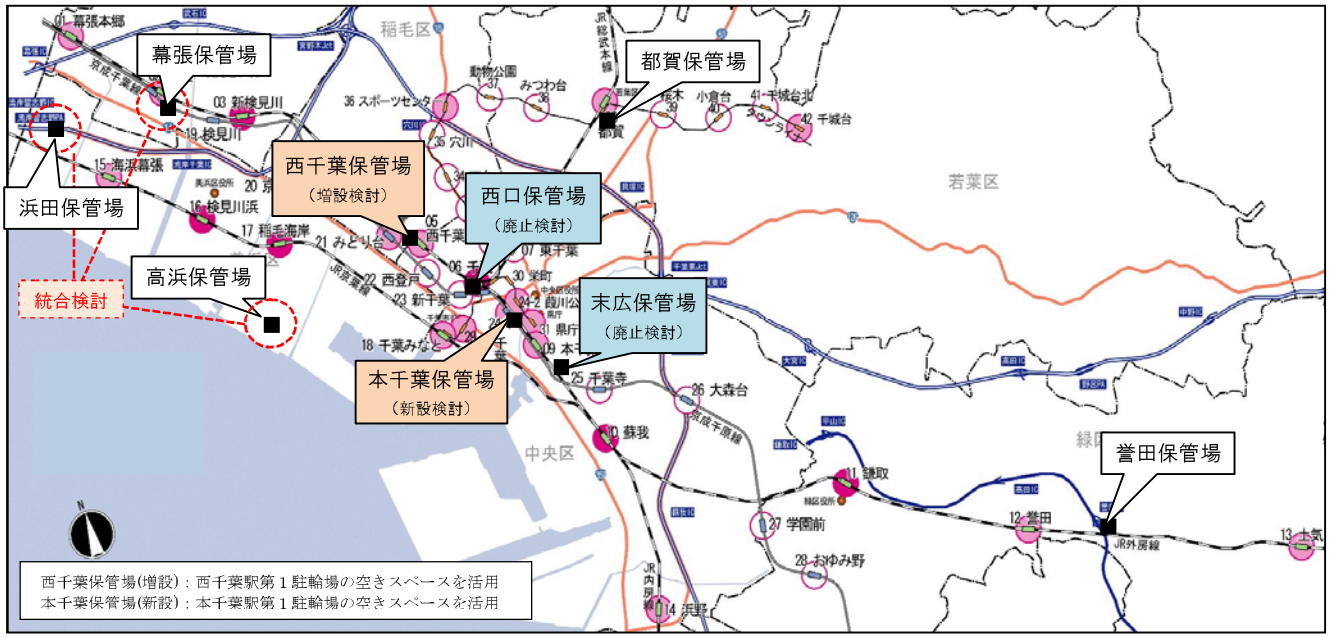
【対応方針】

○保管場の運営状況等に応じて保管場の統廃合を進め、効率的な運営を図る。

○県警との連携強化等により、移動・保管にかかる業務を迅速化し、撤去から引取り・売却までの回転率を高めることにより、保管場の効率的な運営につなげる。



(3)保管場の収容能力の増強と対象駅の再編



浜田　1,700台
保管率　25.2%

駅名称	乗入	駐輪	放置
幕張本郷駅	2,317	2,278	39
海浜幕張駅	3,031	2,959	72
検見川浜駅	2,067	2,005	62

幕張　356台
保管率　38.5%

駅	乗入台数	駐輪台数	放置
幕張駅、京成幕張駅	2,072	2,062	10
新検見川駅	2,077	2,005	72
検見川駅	246	246	0

浜田、幕張、高浜の
統合･再編を検討(後期)

高浜　3,500台
保管率　15.2%

駅	乗入台数	駐輪台数	放置
稲毛駅	3,982	3,925	57
稲毛海岸駅	2,818	2,748	70
千葉みなと駅	611	604	7
稲毛	405	398	7

都賀　900台
保管率　45.8%

駅	乗入台数	駐輪台数	放置
都賀駅	1,969	1,893	76
千葉公園駅	83	58	25
作草部駅	158	150	8
穴川駅	323	323	0
天台駅	145	145	0
スポーツセンター駅	253	250	3
動物公園駅	61	20	41
みつわ台駅	226	99	127
桜木駅	344	344	0
小倉台駅	387	387	0
千城台北駅	254	254	0
千城台駅	413	391	22

誉田　1,200台
保管率　16.8%

駅	乗入台数	駐輪台数	放置
鎌取駅	3,379	3,353	26
誉田駅	857	855	2
土気駅	1,482	1,469	13
学園前駅	119	116	3
おゆみ野駅	185	183	2

千葉駅西口　200台
保管率　15.5%

駅	乗入台数	駐輪台数	放置
千葉駅の一部	1,760	1,723	37

千葉駅西口を廃止し、
末広保管場へ機能移転する。(前期)

末広　3,700台
保管率　29.8%

駅	乗入台数	駐輪台数	放置
葉駅の一部、栄町駅	2,164	2,064	100
千葉駅	418	381	37
蘇我駅	4,439	4,420	19
東千葉駅	60	53	7
浜野駅	1,052	1,023	29
西登戸駅、新千葉駅	56	30	26
中央駅、葭川公園駅、県庁前駅	319	19	300
葉寺駅	151	150	1
森台駅	108	108	0
役所前駅	44	0	44

末広を廃止し、
西千葉、西千葉駅第１、
本千葉駅第１へ機能移転する。(後期)

西千葉　661台
保管率　41.6%

駅	乗入台数	駐輪台数	放置
西千葉駅	939	795	144
みどり台駅	153	120	33

西千葉駅第１駐輪場の有効利用　840台
本千葉駅第１駐輪場の有効利用　2,860台
計　3,700台